1941年から2021年までの日系カナダ人の人口、社会、経済的変化

2023.06.27

大木 崇
カナダ、アルバータ州セント・アルバート市

1. はじめに

本稿ではカナダ国勢調査のデータを用いて、1941年から2021年までの日系カナダ人の人口動態の変化について述べる。また、社会的・経済的プロフィールの歴史的変化についても簡単に述べる。

1.1 主要な調査結果

- カナダは移民の国である。2021年には新たに40万1,000人以上の移民がカナダに移住した。
- 2021年にはカナダ人の26.5%がカナダ国外で生まれた。バンクーバーとトロントでは、カナダ人の2人に1人がカナダ国外で生まれた。
- 2021年にカナダには、129,430人の日系カナダ人（学生ビザまたは就労ビザを持つ7,065人の日本人とその家族を含む）がいた。日系カナダ人はカナダ全人口の0.36%を占めた。
- 日系カナダ人の46%が単一の日本の民族的または文化的起源を持ち、54%が複数の民族的または文化的起源を持つ。日系カナダ人はカナダ人（35.5%）よりも複数の民族的または文化的起源を持つ者の割合が高かった。
- 日系カナダ人の異民族間結婚率は非常に高い。2011年、日系カナダ人と日系カナダ人以外の民族との結婚率（異民族間結婚率）は78.8%であった。カナダ人一般の異民族間結婚率は、視覚的マイノリティ以外のカナダ人と視覚的マイノリティ・カナディアンとの異民族間結婚率は3.9%であった。
- 太平洋戦争後、カナダ政府は1967年に新しい移民規制を導入するまで、日本人移民を制限した。これにより日本からカナダへの移民は、戦前の移民と戦後の移民の間に大きなギャップが生じた。
- 戦後、日系カナダ人の数はカナダ人の数を上回るペースで増加した。これは、若い日本人移民がカナダにやってきて子や孫を作ったこと、戦前の日本人移民の子孫も戦後の日本人移民の子孫も、異民族間の結婚率が高く、複数民族起源の日系カナダ人の子供を、日系人同士が結婚して作る単一民族起源の子供より多く作ったためである。
- 2021年に日系カナダ人の大多数は4つの州に集中して住んでいた。
    - ブリティッシュ・コロンビア州　42.2%
    - オンタリオ州　32.6%
    - アルバータ　14.4%
    - ケベック州　5.8%
- 日系カナダ人はカナダ人より相対的に若い。0歳から14歳のグループがカナダ人より相対的に多く、55歳以上のグループが相対的に少ない。

- 2021年に戦後移民の日系カナダ人の第一世代が、日系カナダ全体の37%を占めた。第一世代にその子供と孫を加えた合計は、日系カナダ人の65%を占めたと推定される。
- 日系移民の子孫は三代で日本語を母語としなくなる。第二世代では33パーセントが日本語を母語としているが、第三世代ではわずか2パーセントしか日本語を母語としていない。
- 日系カナダ人はカナダ人より最終学歴が高い。
- 日系カナダ人はあらゆる産業で働てている。
- 日系カナダ人男性の平均雇用所得はカナダ人男性より13%高いが、日系カナダ人女性の平均雇用所得はカナダ人女性より2%低い（2020年）。
- 過去30年間の日本人移民の75%が女性で、女性移民の62%が家族スポンサーによる移民であった。
- 日本からの新移民はカナダ永住権を取得してカナダに移住するが、カナダ国籍取得を決意するまでにかなりの時間を費やす。

1.2 2021年国勢調査における「日系カナダ人」の定義

1.2.1 民族的または文化的起源

2021年国勢調査の統計には二種類の「日系カナダ人」がある。最初の日系かな人は「日本に民族的または文化的起源を持つ人」であり、もう一つの日系カナダ人は「可視的日本人グループ」の属する日系カナダ人である。本稿では最初の「日系カナダ人」を単に日系カナダ人、もう一つの日系カナダ人を「可視的日系カナダ人」と呼ぶ。2021年国勢調査の統計の大部分は最初の日系カナダ人についてであるが、戦後の日系人移民とその特性についての統計は「可視的日系カナダ人」に関しである。また異民族間結婚率の統計も「可視的日系カナダ人」に基づいている。

2021年カナダ国勢調査は、回答者に次のような質問をした。「あなたの先祖の民族的または文化的起源は何ですか？」

回答者は民族的・文化的出自のリストを参照して、ひとつ、または複数の民族的・文化的起源を選択する。国勢調査は、一つの起源だけを選択した人（単一民族・文化起源）と複数の民族的・文化的起源を選択した人（複数民族・文化起源）の二つのグループについて統計をとっている。国勢調査は、2016年、2011年、2006年にも同じ質問をした。2001年、1996年、1991年の国勢調査では、「あなたのの祖先はどの民族・文化集団に属していましたか？」という質問であり、質問の内容は本質的に同じであった。1991年以前の国勢調査については、私はまだ正確な質問を見つけていないが、本稿では1991年以前の国勢調査の統計で「日系カナダ人」の人数と記載されているものは、2021年の国勢調査における「日系カナダ人」と同様な定義による統計と仮定する。

カナダ国勢調査は「民族的または文化的出身」を次のように説明している。

> 民族的または文化的起源とは、その人の祖先の民族的または文化的起源を指す。祖先は先住民族であったり、異なる国を指す祖先であったり、異なる国を指さない祖先であったりする。しかし、民族的・文化的起源と市民権、国籍、言語、出生地と混同してはならない。例えば、ヒンディー語を話し、米国で生まれたカナダ市民が、ガイアナ人の先祖を持つことを報告するこ

とがある。

国勢調査の民族的・文化的出身に関する質問に対する回答は、回答者が自分の民族的、文化的背景に対する認識を反映したものである。回答者の民族的・文化的起源の選択は、現在の社会環境家族の歴史に関する知識、ここのトピックに対する理解や見解など、多くの要因に基づいており、また、これらの要因自体が時間の経過とともに変化する可能性もある。

国勢調査の日系カナダ人の定義はこのように回答者の主観的判断によるものであることを、本稿を統計を分析する時に留意しておく必要がある。

日系カナダ人には、学生ビザや就労ビザでカナダに滞在している日本人とその家族（2021年には7,065人、日系カナダ人の5%）が含まれるが、観光ビザでカナダに滞在している日本人は含まれない。

1.2.2　世代と民族的・文化的起源

2021年国勢調査には、回答者と両親の出生地に関する質問が含まれている。この質問への回答により回答者の世代決定することが出来る。

第一世代は、カナダ国外で生まれカナダに移住した人々である。
第二世代は、第一世代の子供である。
第三世代以上は、両親がカナダで生まれた人たちである。

表1
２０２１年の世代別、民族・文化起源別日系カナダ人数

世代	単一	複数	全て	複数の％
第１世代	31,915	13,280	48,195	37
第２世代	12,610	26,200	38,810	30
第３世代以上	11,870	30,555	42,425	33
全ての世代	59,395	70,035	129,420	100

パーセント分布

世代	単一	複数	全て
第１世代	72	28	100
第２世代	32	68	100
第３世代以上	39	61	100
全ての世代	46	54	100

出典：2021年カナダ国勢調査

表1は2021年の日系カナダ人数を示している。カナダ在住の日系カナダ人総数は129,430人で、そのうち学生ビザまたは就労ビザを持つ日本人とその家族は7,065人である。
59,395人が単一の日本の民族的または文化的起源を持ち（46%）、
70,035人が日本の民族的または文化的起源とその他の民族的または文化的起源を持つ。

第一世代では、72%が単一の日本の民族的または文化的起源を持つが、28%が複数の民族的または文化的起源を持つ。複数起源の第一世代は日本人と外国人のカップルの子供であったり、そのほかの利用

で日本の民族的または文化的起源に特定の関連を持つ人であろうが、国勢調査のデータからだではどのような人たちであるかはわからない。

第一世代（新移民）の中には、日系カナダ人以外の人と結婚する人も多いため、その子供たちは日本の民族的・文化的起源を含む複数の民族的・文化的起源を持つ人々として、国勢調査の民族的・文化的起源に関する質問に答えている可能性が高い。

第3世代以上の日系カナダ人のうち、単一の日本の民族的・文化的起源を持つ人の割合が（39%）が第2世代の割合（32%）をわずかに上回っているのが興味深い。日系カナダ人の異民族間結婚率はカナダ人の中でも非常に高く、複数の民族的または文化的起源を主張しうる子供を生んで居る。では2021年国勢調査で、第3世代以上の日系カナダ人に日本を単一の民族的・文化的起源とする人が、なぜ多かったのだろうか？彼らが日本だけを起源とする要因は何だったのだろうか？

1.2.3　カナダ人の民族的または文化的起源

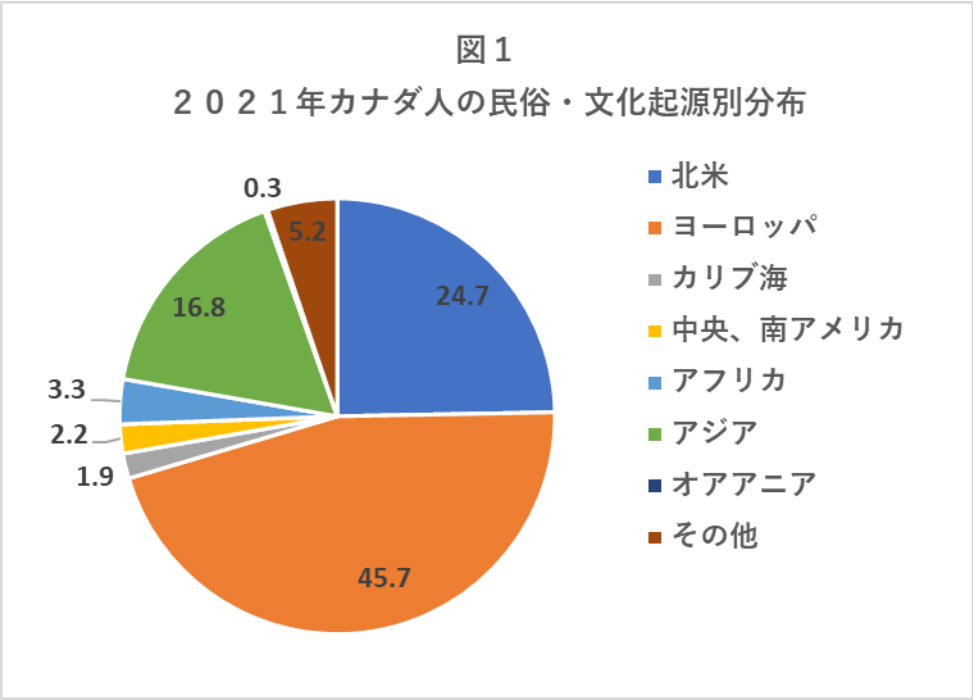
2021年、カナダの人口は36,328,475人であった。日系カナダ人はカナダ総人口の0.36%を占める。カナダは多民族国家である。2021年、カナダ人の35.5パーセントが複数の民族または文化的起源を持つと答えた。

カナダは移民一世が人口に占める割合が高い。2021年には、約40万1,000人が新たにカナダに移民してきた。 63%が経済移民、20%が家族支援移民、残りが難民と保護移民である。2021年にカナダ人の26. 4パーセントが移民一世である。つまり、カナダ人の4人に1人がカナダ国外で生まれたことになる。バンクーバーとトロントでは、カナダ人の2人に1人がカナダ国外で生まれた。他のG7諸国の近年の移民一世の人口にしめる割合は、米国が14%、ドイツが18%、イギリスが17%であった。

表1は、2021年におけるカナダ人の民族的・文化的起源別のパーセント分布を示している。この図で注目すべき点が二つある。

第二次世界大戦まではカナダ人の主要なグループであったヨーロッパ系カナダ人は、2021年にはカナダ人口の半分以下（46%）にまで減少している。

カナダ人の25%が北米を単一の民族的・文化的起源として選んでいる（北米先住民を民族的・文化的起源とするカナダ人の6.1%を除く）。北米起源の人は、「カナダ人」（16%）、「フランス系カナダ人」（3%）、「ケベック人」（3%）などと答えている。これらはカナダ移民の歴史がながい集団の人たちである。移民はカナダで世代を重ねるにつれて、自らを 「カナダ人 」と認識する傾向がある。この傾向は日系カナダ人にも起こりうることだが、日系カナダ人にこの傾向がどの程度存在するかは国勢調査の統計だけからではわからない。



1.2.4　可視的少数民族

連邦政府の連邦雇用平等法は、すべてのカナダ人が雇用の機会を平等に得られることを促進するプログラムである。このために連邦政府は可視的少数瓶族グループを定義して、国勢調査に可視的少数瓶族グループに関する質問を入れている。

「あなたは次のような人ですか？」

- 白人
- 南アジア系（東インド系、パキスタン系、スリランカ系など）
- 中国人
- 黒人
- フィリピン人
- アラブ人
- ラテンアメリカ系
- 東南アジア系（ベトナム人、カンボジア人、ラオス人、タイ人など）
- 西アジア系（イラン人、アフガニスタン人など）
- 韓国人
- 日本人
- その他のグループ（具体的に示す）

2021年の国勢調査で、日本人可視的少数民族グループに属すると回答した人の数は、日本を民族的または文化的起源に持つと答えた人の82%であった。日本を民族的または文化的起源に持つと答えた人でも、自分が日本人可視的少数民族グループに属さないと考える人がいたことになる。

1.2.5　異民族間結婚率

ある民族グループの人が他の民族グループの人と結婚することを、異民族間結婚と呼ぶ。この種の結

婚については、異人種間結婚、異文化間結婚、異種間結婚など、いくつかの呼び方がある。カナダ連邦政府は、その報告書で混合婚（mixed union）という言葉を使っている。

表2とグラフ2は、2011年の目に見える可視的少数民族グループの異民族間結婚率を示している。日本人の異民族間結婚は78.7パーセントで、他のどの可視的少数民族グループよりもはるかに高い。なお、日本人の目に見えるマイノリティ・グループには、戦後の新移民とその子孫も含まれており、日本人可視的少数民族グループには戦後の日本人移民とその子孫もふくまれており、
日系カナダ人全体として異民族間結婚率が、他の可視的少数民族グループと比べて非常に高い。

表 2
2011年の可視少数民族グループの異民族間結婚比率

可視少数民族グループ	全ての結婚	異民族間結婚	同民族間結婚
	Number	Percentage	
日本人	32,820	78.7	21.3
ラテンアメリカ人	112,265	48.2	51.8
黒人	167,950	40.2	
フィリピン人	155,700	29.8	70.2
アラブ人	94,315	25.4	74.6
韓国人	41,370	22.5	77.5
東南アジア人	74,560	21.9	78.1
西アジア人	51,300	19.5	80.5
中国人	351,640	19.4	80.6
南アジア人	407,510	13.0	87.0
複数の可視少数グループ	40,415	64.9	35.1
その他	27,215	52.4	47.6

出典: Statistics Canada, National Household Survey, 2011, "Mixed Unions in Canada, Catalogue Number 99-010-X2011003

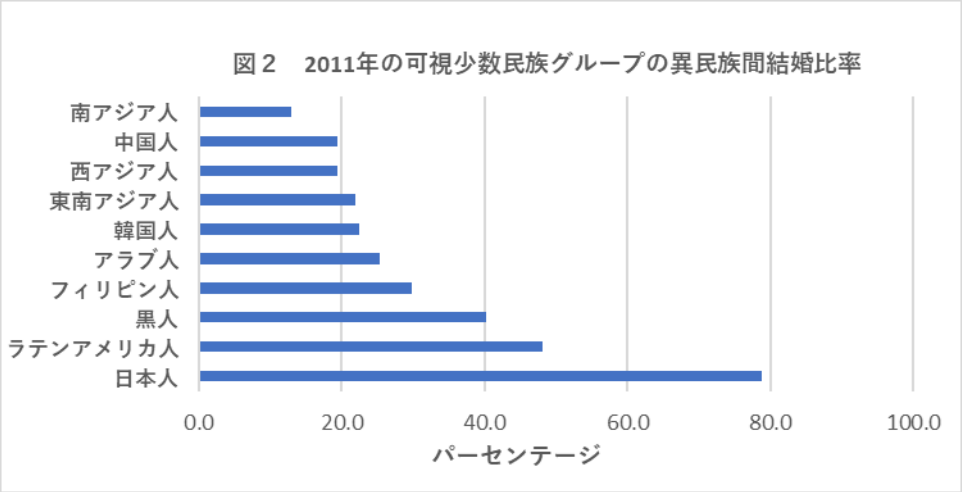


表３

カナダ人の異民族結婚率、２０１１年

年	パーセント
1991	2.6
2001	3.1
2006	3.9
2011	4.6
可視 x 可視	0.7
可視 x 非可視	3.9

出典：Statistics Canaada, National Household Survery 2011

カナダ人全体のの異民族間結婚率は、1991年の2.6パーセントら2011年の4.1パーセントに上昇した。2021年に、非可視的少数民族グループの人と可視的少数民族グループの人の異民族間結婚（非可視×可視）は3.9パーセントであった。また、可視的少数民族グループの人と可視的少数民族グループの人異民族間結婚（非可視×非可視）は0.7パーセントであった。（表3参照）。

1.2.6　異民族間結婚が日系カナダ人数に与える影響

日系カナダ人が非日系カナダ人と結婚して子どもをもうけた場合、カナダ国勢調査の定義では、日系カナダ人が日系カナダ人と結婚した場合よりも日系カナダ人の子どもが多くなる。このようなことがどのように起こるか、以下の例で見てみよう。

ケースA：

日系カナダ人（JC）の男子がJCの女子と結婚し、2人の子供をもうける。

ケースB

JCの男子が非JCの女子と結婚して2人の子どもをもうけ、JCの女子が非JCの男子と結婚して2人の子どもをもうける。

ケースAの民族内結婚では、1人のJC男子と1人のJC女子が2人の単一民族JCの子どもを生むが、ケースBの民族間結婚では、1人のJC男子と1人のJC女子が4人の複数民族JCの子どもを生む。このように、JCコミュニティにおける異民族間結婚の割合が高ければ高いほど、複数民族・文化起源の日系カナダ人の数が増加うする。日系カナダ人は、戦後移民も含めて、異民族間の結婚率が非常に高い。これが戦後の日系カナダ人の高い増加率に寄与している。

2.　太平洋戦争後の日系カナダ人の増加

2.1　日本に強制送還された、あるいは日本に取り残された日系カナダ人の戦後カナダへの帰還

1941年、カナダには23,149人の日系カナダ人がいたが、その95.5パーセントはブリティッシュ・コロンビア州にいた。1945年12月に太平洋戦争が勃発すると、カナダ政府はブリティッシュ・コロンビア州沿岸100マイル以内の保護地域から、ブリティッシュ・コロンビア州内陸部の収容所や自活キャンプ、ブリティッシュ・コロンビア州とオンタリオ州の道路建設キャンプ、アルバータ州、マニトバ州、オンタリオ州のテンサイ農場、オンタリオ州の捕虜収容所への日系人の集団強制移動を実施した。

1945年8月、日本の連合国への無条件降伏によって太平洋戦争が終結すると、カナダ政府は、戦時中に収容所に抑留されていた日系カナダ人の戦後処遇政策を検討する必要に迫られた。さまざまな反日団体の要求に応じて決定されたこの政策は、すべての日系カナダ人を日本への「送還」（日系カナダ人は外国である日本への送還はできないので、追放と呼ぶのが適切である）か、ロッキー山脈以東への移住のいずれかを強いるものであった。この政策が発表されると、それまで反日とされていたカナダ人の間で日本への追放に反対する声が上がった。その結果、日本へ追放された日系カナダ人の数は、当初の予定よりも少なくなった。

日系カナダ人は、1946年6月から12月までの間に、5隻の強制送還船によって日本に追放された。1947年1月までに、合計3,964人の日系カナダ人神奈川県浦賀に上陸した。追放された日系カナダ人の構成を表43に示す。

表 4
ｶﾅﾀﾞから日本に追放された日系人数

	人数	パーセント分布
国籍国籍		
日本	1,355	34
カナダに帰化	630	15
カナダ出生でカナダ国籍	1,979	51
１６才以上	658	18
１６才未満	1,321	33
合計	3,964	
日本に取り残された日系カナダ人		
	1,688	
１６才以上	205	
１６才未満	1,483	

出典：原口、研究ノート

日本へ追放された人の他に、日米交換船で日本へ渡った日系カナダ人は37人いた。内訳は以下の通りである。

1942年の第1回交換船からの帰国者42人のほとんどは、外交官、企業家、商人、およびその家族を含む日本人であった。

1943年の第2回交換船の61人の内訳は、日本国籍者24人、帰化カナダ人20人、カナダ生まれの17歳以下の未成年であった。

これらの交換船で日本に渡った37人の日系カナダ人を含めると、1947年初めには約6,000人の日系カナダ人が日本に住んでいたことになる。

日本へ追放された日系カナダ人の多くは、戦争で荒廃した日本の現実を目の当たりにして、すぐにカナダへの帰国を希望したが、カナダ政府の強固な日本人移民制限政策により、そのような帰国は困難であった。カナダでは、1947年9月に全カナダ日系市民協会（NJCCA）が結成され、各州の支部の代表が連邦政府に対し、日本在住の日系カナダ人のカナダへの帰国を認めるよう繰り返し請願した。

NAJCと日系カナダ人は、連邦政府に対し、日本にいる家族のカナダへの帰国をスポンサーできるよう求め続けた。しかし、日本在住の日系カナダ人がカナダに戻ってくるまでには長い時間がかかった。カナダに帰国した日系カナダ人の時期や人数についての正確な記録はなく、わずかな情報から推測するしかない。

日系カナダ人を日本に国外追放する際、連邦内閣は政令7355号を作り、強制送還された日系カナダ人からカナダ市民権を剥奪した。そのため、強制送還された日系カナダ人は日本のパスポートを使って家族スポンサー移民の資格を申請した。つまり、日本にいる日系カナダ人は、カナダにいる親族にスポンサーになってもらい、カナダに戻ってきたのである。

カナダ政府は、太平洋戦争終了後に上陸移民資格 (landed immigrant)を与えられた日本人（カナダに戻った国外追放された日系カナダ人を含む日本国籍保持者）の数を記録している（表5Aおよび5B参照）。

表 5A

日本人の毎年のカナダ移民数　１９４５年から２０２２年まで

年	移民数	年	移民数	年	移民数	年	移民数
1945	0	1965	188	1985	205	2005	1,065
1946	1	1966	500	1986	273	2006	1,210
1947	0	**1967**	858	1987	446	2007	1,250
1948	5	1968	693	1988	346	2008	1,285
1949	11	1969	766	1989	541	2009	1,195
1950	11	1970	797	1990	365	2010	1,165
1951	3	1971	883	1991	492	2011	1,265
1952	6	1972	718	1992	586	2012	1,210
1953	46	1973	1,105	1993	910	2013	985
1954	71	1974	859	1994	956	2014	1,125
1955	97	1975	635	1995	835	2015	995
1956	121	1976	498	1996	1056	2016	1,035
1957	180	1977	412	1997	971	2017	1,085
1958	183	1978	359	1998	1,021	2018	1,035
1959	190	1979	666	1999	1,356	2019	1,115
1960	159	1980	737	2000	1,010	2020	615
1961	114	1981	770	2001	1,090	2021	1,405
1962	134	1982	630	2002	805	2022	885
1963	171	1983	330	2003	815	2023	
1964	140	1984	250	2004	975	2024	

出典： Immigration, Refugees, and Citizenship Canadian

Table 5B

日本人の累積のカナダ移民数　１９４５年から２０２２年まで

年	累積移民数	年	累積移民数	年	累積移民数	年	累積移民数
1945	0	1965	1831	1985	14502	2005	30,416
1946	1	1966	2331	1986	14775	2006	31,626
1947	1	**1967**	3189	1987	15221	2007	32,876
1948	6	1968	3882	1988	15567	2008	34,161
1949	17	1969	4648	1989	16108	2009	35,356
1950	28	1970	5445	1990	16473	2010	36,521
1951	31	1971	6328	1991	16965	2011	37,786
1952	37	1972	7046	1992	17551	2012	38,996
1953	83	1973	8151	1993	18461	2013	39,981
1954	154	1974	9010	1994	19417	2014	41,106
1955	251	1975	9645	1995	20252	2015	42,101
1956	372	1976	10143	1996	21308	2016	43,136
1957	552	1977	10555	1997	22279	2017	44,221
1958	735	1978	10914	1998	23300	2018	45,256
1959	925	1979	11580	1999	24656	2019	46,371
1960	1084	1980	12317	2000	25666	2020	46,986
1961	1198	1981	13087	2001	26756	2021	48,391
1962	1332	1982	13717	2002	27561	2022	49,276
1963	1503	1983	14047	2003	28376	2023	
1964	1643	1984	14297	2004	29351	2024	

出典： Immigration, Refugees, and Citizenship Canadian

表5Bは、1945年から各年までの日本国籍移民の累計数を示している。例えば、1945年から1951年までの日本人移民の総数は31人であった。1945年から2022年までの日本人移民の総数は49,276人である。1941年から2022年までに49,276人の日本人がカナダに移民した。ただし、この中から日本に帰国したり、他国に移住したり、死亡した人がいる。国勢調査にはこれらの人数の統計はない。

戦後移民の統計には、戦後すぐに日本へ追放された人、戦前に日本に行き、戦争で日本に取り残された人、日米交換船で日本に行った人で、カナダの戻った人たちを含む。これらの日本在住日系カナダ人がいつ頃、何人カナダに戻ったかについての情報はほとんどない。
しかし、次のような情報がある（鹿毛達夫『日系カナダ人追放』）。

(1)　全カナダ日系市民協会は、連邦政府への請願書の中で、1946年から1959年までのの日本人移民925人のほとんどが、第二次世界大戦勃発時に日本に取り残された日系カナダ人と日米交換船によって両親とともに日本に渡った日系カナダ人の子供たちであったと述べている。

(2)　1993年1月13日、日系カナダ人補償事務局は、"日本在住の日系カナダ人1,337人が日系カナダ人補償協定の個人補償を申請し、そのうち1,123人が補償を受けた "と発表した。

(3)　1988年の日系カナダ人に対する補償協定を受け、日系カナダ人補償事務局と全カナダ日系人協会（NAJC）は、1989年8月から日本で個人補償に関する説明会を開催した。鹿毛辰雄は、日系カナダ人補償事務局とNAJCの合同訪日団に同行し、日本における日系カナダ人個人補償の窓口となった井出

和幸・在日日系カナダ人協会初代会長から、次のような情報を得た。

(a) 1989年までに、日本に国体追放された日系カナダ人の半数がカナダに帰国した。
(b) 1989年現在、750人から1,000人の日本に国体追放された日系カナダ人が、まっだ日本に残っている。
(c)1949年から1989年の間に、約800人の日本在住の日系カナダ人が死亡した。
(d)1989年現在、約200人の戦前日本に取り残された日本人がまた日本にいる。

以上の情報をもとに、在留日系カナダ人でカナダに帰国した人の数と帰国の時期を推定すると次のようになる。

- 1947年初め、日本には5,699人の日系カナダ人がいた。
- 1959年までに925人がカナダに帰国した。
- 1989年に、合計1,337人の日系カナダ人がまだ日本に住んでいた。
- 1989年までに約800人の日系カナダ人が日本で死亡。
- 1989年までに、合計3,562人の日系カナダ人がカナダに帰国。
- (5,699 - 1,337 - 800 = 3,562)

2.3 戦後の日系カナダ人人口の増加

2.3.1 カナダの戦後の日本人移民政策

太平洋戦争直後、カナダ政府は、カナダには激しい反日感情が存在し、また日系カナダ人はカナダ社会に同化することが困難であると認識していた。この認識に基づいて、カナダ政府は日本人移民を厳しく制限する政策を採用した。例外はあったものの、この政策は1967年にカナダ政府が人種による移民差別を正式に廃止し、移民規則にポイント制を導入するまで維持された。

表6Aと表6Bは、1941年から2021年までの国勢調査における日系カナダ人の数、日系移民の累積数、カナダ人の数を示している。例えば、1961年の累積日本人移民数は、1941年から1961年までの日本人移民の合計である。

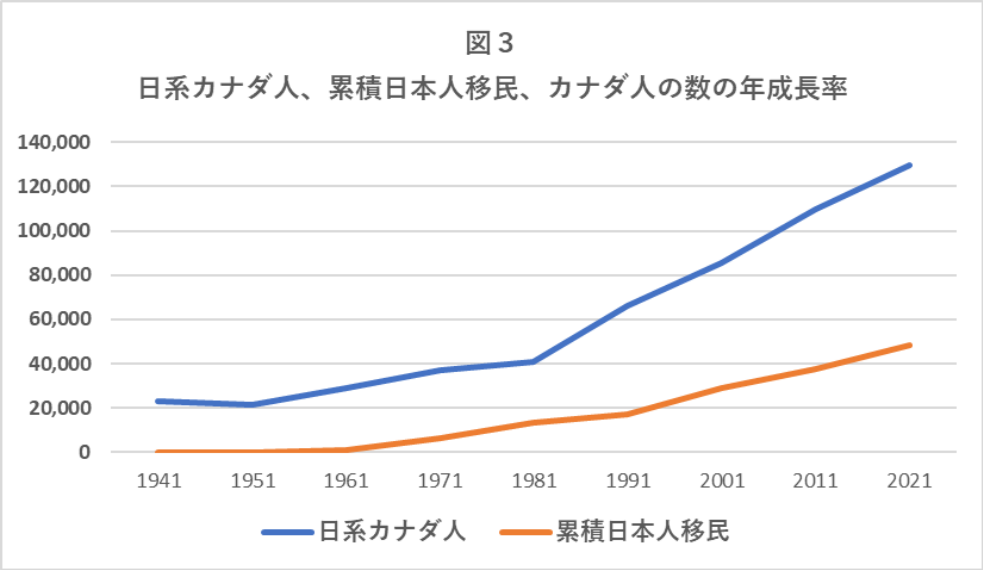
表 6A
日系ｶﾅﾀﾞ人、日本人移民、ｶﾅﾀﾞ人の数

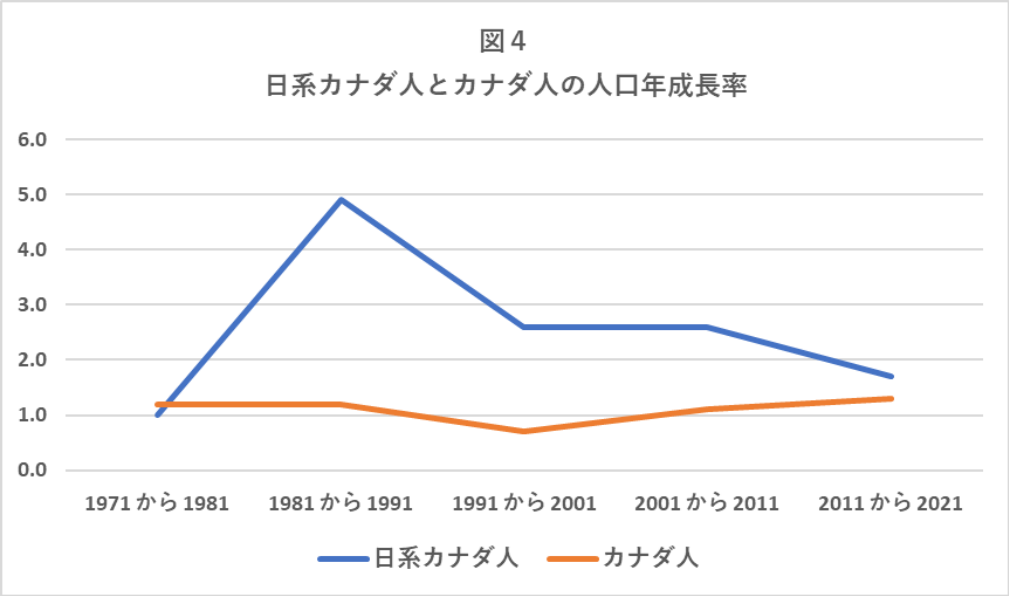
年	日系カナダ人	累積日本人移民	カナダ人
1941	23,149	0	11,507,000
1951	21,663	31	14,009,000
1961	29,157	1,198	18,238,000
1971	37,255	6,328	21,962,000
1981	40,990	13,087	24,819,000
1991	65,945	16,965	28,037,000
2001	85,230	28,756	30,007,000
2011	109,745	37,786	33,476,688
2021	129,430	48,391	38,226,498

出典：Census of Population, Canada

表 6B
日系カナダ人、累積日本人移民、カナダ人の数の年成長率

期間	日系カナダ人	累積日本人移民	カナダ人
1971 から 1981	1.0	7.5	1.2
1981 から 1991	4.9	2.6	1.2
1991 から 2001	2.6	4.7	0.7
2001 から 2011	2.6	3.5	1.1
2011 から 2021	1.7	2.5	1.3





カナダの人口は、1941年の1,150万人から1971年の2,200万人へとほぼ倍増した。第二次世界大戦後、多くの移民がヨーロッパからカナダに移住したからである。彼らは戦争や政変で荒廃した母国からカナダへ逃れてきた。たとえば、1945年から1960年の間に、40万人近くのドイツ人移民がカナダに移住た。これらの人たちなかには。その後ヨーロッパや他の国に移住した人もいた。同様に、約50万人のイタリア人移民がカナダに移住した。

カナダは1967年に移民規則ににポイント制を導入するまで、日本からの移民を制限していた。1942年から1967年にかけての日本人移民はわずか3,189人で、その多くはカナダにいる親族によてスポンサーされてカナダに帰国した在日カナダ人であったと思われる。ドイツ系カナダ人社会やイタリア系カナダ人社会は、戦後に大量の同国人を受け入れて規模を大きくしたが、日系カナダ人社会は日本人移民による規模の拡大はできなかった。

1967年以降、カナダが移民規定にポイント制を導入し、人種による制限を撤廃すると、新たな日本人移民がカナダに流入し始め、日系カナダ人の増加に貢献した。日系カナダ人の数は、主に戦前の移民とその子孫37人であった1961年の28,157人から、戦前の日系カナダ人に新たな日系移民が加わった1971年には255人に増加した。

1981年以降、日系カナダ人の数はカナダ人の数を上回るペースで増加している（6B参照）。

図表3は、青い線（日系カナダ人の数）と茶色の線（戦後日系移民の累積数）の垂直距離が、1981年以降に拡大し始めたことを示している。この距離（日系カナダ人総数 - 戦後累積移民数）は、戦前の日系カナダ人とその子孫、戦後の日系移民の子孫の合計である。

つまり、戦後の日系カナダ人数は、以下の要素の合計である：

(1) 戦前移民の数

(2) 戦前移民の子孫数

(3) 戦後移民の数

(4）戦後移民の子孫数

日系カナダ人（戦前移民の子孫、戦後移民の子孫とその子孫）の高い民族間結婚率は、複数民族・文化日系カナダ人数に民族間結婚効果をもたらし、戦後の日系カナダ人数の高い伸びをもたらした。

3. 日系カナダ人の地理的分布

3.1 1941年から2021年までの日系カナダ人の州分布の変化

表7A4に示すように、1941年にカナダには23,149人の日系カナダ人がおり、その95.5%はブリティッシュ・コロンビア州にいた。1946年、連邦政府は3,964人の日系カナダ人を日本に強制送還し、その他の日系カナダ人をブリティッシュ・コロンビア州（BC州）からロッキー山脈の東に分散させた。その結果、BC州の日系カナダ人の数は1964年には61.0%まで減少した。1947年3月31日、連邦政府は日系カナダ人の移動制限を撤廃し、一部の日系カナダ人はブリティッシュ・コロンビア州に戻り始めた。しかし、1951年までには、日本に強制送還された日系カナダ人のうちカナダに戻ることができた人は

わずかであり、その結果、カナダの日系カナダ人の数は21,663人となり、戦前の1941年の23,149人を下回った。ブリティッシュコロンビア州における日系カナダ人の割合は33.1%という低い水準にとどまった。

1967年にカナダの移民政策にポイント制が導入されると、新たな日本人移民がカナダにやってくるようになった。1986年までに日系カナダ人の数は54,505人に増加した。これは新規移民と日系カナダ人が日系人以外の人と結婚した民族間結婚の結果である。1986年には、BC州における日系カナダ人の割合は日系カナダ人全体の39.4%に増加した。また、オンタリオ州も日系カナダ人の主要な居住地となり、オンタリオ州の日系カナダ人の人口の日系カナダ人全体の37.8%を占めるようになった。1951年以来、BC州とオンタリオ州は日系カナダ人にとって重要な二つの中心居住地であり続けている。2021年には、両州は日系カナダ人の75%近くを占めている。言い換えれば、日系カナダ人の4人に3人がBC州かオンタリオ州に住んでいたことになる。

表 7A

１９４１年から２０２１年までの州別日系カナダ人数

	1941	1945	1946	1951	1961	1971
日系カナダ人総人口	23,149	23,854	24,112	21,663	29,157	37,255
ニューファンドランドとラブラドール	-	-	-	2	3	20
プリンス・エドワード・アイランド	-	-	-	6		15
ノバ・スコシア	2	1	1	4	28	85
ニュー・ブルンズウィック	3	0	10	7	18	40
ケベック	48	532	716	1,137	1,459	1,745
オンタリオ	234	2,914	3,742	8,581	11,870	15,600
マニトバ	42	1,052	1,052	1,161	1,296	1,335
サスカチュワン	105	157	164	225	280	315
アルバータ	578	3,559	3,681	3,336	3,721	4,460
ブリティッシュ・コロンビア	22,096	15,610	14,716	7,169	10,424	13,585
ユーコン、北西準州	41	29	30	35	58	55
日本に国外追放			3,964			
カナダ総人口	11,507,000	12,072,000	12,292,000	14,009,000	18,238,000	21,962,000

	1981	1991	2001	2011	2021
日系カナダ人総人口	40,990	65,945	85,230	109,745	129,430
ニューファンドランドとラブラドール	25	30	65	75	150
プリンス・エドワード・アイランド	5	35	75	190	250
ノバ・スコシア	40	310	545	530	1,125
ニュー・ブルンズウィック	30	145	235	395	445
ケベック	1,395	2,680	3,210	5,555	7,465
オンタリオ	16,685	24,380	29,075	37,910	42,250
マニトバ	1,300	1,555	1,920	2,335	2,770
サスカチュワン	205	770	640	985	1,295
アルバータ	5,225	8,745	11,945	15,650	18,605
ブリティッシュ・コロンビア	16,040	27,145	37,385	45,895	54,640
ユーコン、北西準州	40	150	135	225	435
日本に国外追放					
カナダ総人口	24,819,000	28,037,000	30,007,094	33,476,688	38,226,498

表 7B

パーセント分布

	1941	1945	1946	1951	1961	1971
日系カナダ人総人口	100	100	100	100	100	100
ニューファンドランドとラブラドール				0.0	0.0	0.1
プリンス・エドワード・アイランド				0.0	0.0	0.0
ノバ・スコシア	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2
ニュー・ブルンズウィック	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1
ケベック	0.2	2.2	3.0	5.2	5.0	4.7
オンタリオ	1.0	12.2	15.5	39.6	40.7	41.9
マニトバ	0.2	4.4	4.4	5.4	4.4	3.6
サスカチュワン	0.5	0.7	0.7	1.0	1.0	0.8
アルバータ	2.5	14.9	15.3	15.4	12.8	12.0
ブリティッシュ・コロンビア	95.5	65.4	61.0	33.1	35.8	36.5
ユーコン、北西準州	0.2	0.1	0.1	0.2	0.2	0.1
日本に国外追放			16.4			
	1981	1991	2001	2011	2021	
日系カナダ人総人口	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
ニューファンドランドとラブラドール	0.1	0.0	0.1	0.1	0.1	
プリンス・エドワード・アイランド	0.0	0.1	0.1	0.2	0.2	
ノバ・スコシア	0.1	0.5	0.6	0.5	0.9	
ニュー・ブルンズウィック	0.1	0.2	0.3	0.4	0.3	
ケベック	3.4	4.1	3.8	5.1	5.8	
オンタリオ	40.7	37.0	34.1	34.5	32.6	
マニトバ	3.2	2.4	2.3	2.1	2.1	
サスカチュワン	0.5	1.2	0.8	0.9	1.0	
アルバータ	12.7	13.3	14.0	14.3	14.4	
ブリティッシュ・コロンビア	39.1	41.2	43.9	41.8	42.2	
ユーコン、北西準州	0.1	0.2	0.2	0.2	0.3	
日本に国外追放						

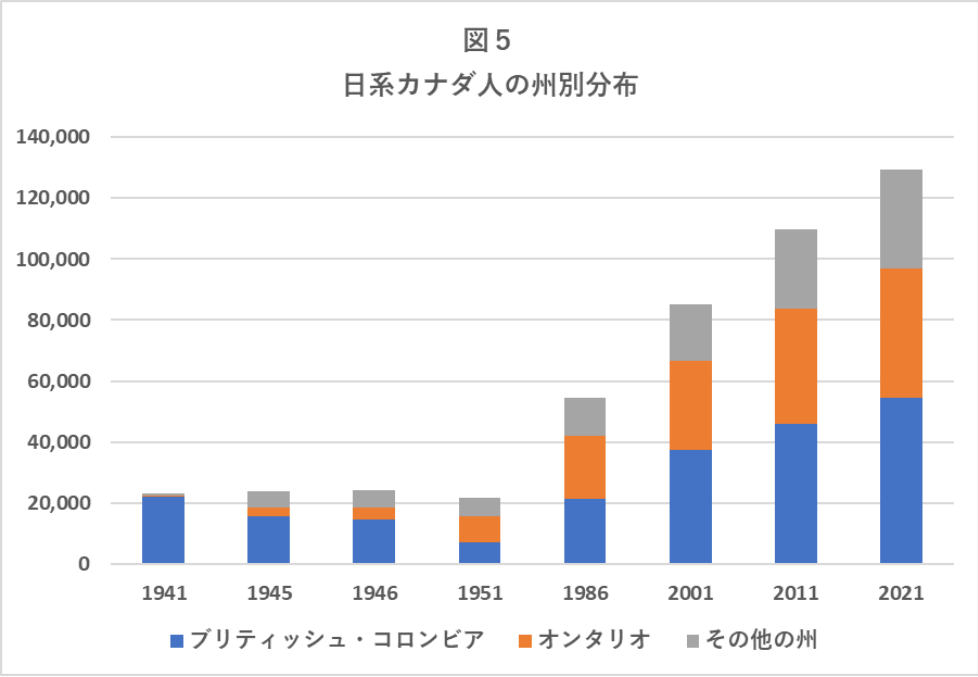


表８
１９８６年と２０２１年の市町村別日系カナダ人数

市町村	1986	1996	2021	年成長率１９８６年から１９９６年	年成長率１９９６年から２０２１年	１９８６年の日系カナダ人分布	２０２１年の日系カナダ人分布	NAJC所属団体
日系カナダ人総人口	54,505	77120	129,430	5.3	3.5	100.0	100.00	
バンクーバー	15,115	24,300	38,950	4.8	3.2	27.7	30.09	X
トロント	15,030	19,470	27,255	3.4	2.3	27.6	21.06	X
カルガリー	2,945	3,875	8,540	8.2	5.4	5.4	6.60	X
モントリオール	1,890	2,755	5,940	8.0	5.3	3.5	4.59	X
エドモントン	1,940	1,910	4,255	8.3	5.5	3.6	3.29	X
ビクトリア		1,555	3,805	9.4	6.1		2.94	X
オタワ・がーノー	1,020	1,495	3,725	9.6	6.3	1.9	2.88	X
ウィニペグ	1,545	1,715	2,370	3.3	2.2	2.8	1.83	X
ハミルトン	1,535	1,615	2,330	3.7	2.5	2.8	1.80	X
レスブリッジ	3,100		1,995			5.7	1.54	X
ケロウナ	895		1,955			1.6	1.51	
キッチナー・ワータールー		465	1,520		8.2		1.17	
ロンドン		620	1,125		4.1		0.87	
キャムループス	1,340		1,120			2.5	0.87	X
セント・キャサリン・ナイアガラ			995				0.77	
Oshawa (CMA), Ont.		410	885		5.3		0.68	
オシャワ			885				0.68	X
アボッツフォード・ミッション			875				0.68	
ハリファックス			870				0.67	
バーノン	360		575			0.7	0.44	X
サスカツーン			525				0.41	
チリワック			525				0.41	
ケベック・シティー			510				0.39	
サンダー・ベイ		460	395		-1.0		0.31	
リジャイナ		200	380		4.4		0.29	X
キングストン’			375				0.29	
ウィンザー		165	355		5.2		0.27	
クーテにー			345				0.27	
レッドディア			325				0.25	
キャムロース			320				0.25	
スクオミッッシュ			280				0.22	
ピーターボーろう			230				0.18	
ダンカン			220				0.17	
ホワイトホース			220				0.17	X
チャーロトオタウン			175				0.14	
メヂスンハット			165				0.13	
サーモンアーム			165				0.13	
イエローナイフ			110				0.08	
フレデリクトン			95				0.07	
セイントジョンズ			90				0.07	

出典：カナダ国勢調査

3.1　1986年から2021年までの都市における日系カナダ人の変化

表8は、1986年、1996年、2021年に主要都市に居住した日系カナダ人の数と、1986年から1996年、1996年から2021年の年平均成長率を示している。

1986年当時、バンクーバーとトロントには、それぞれ日系カナダ人の約28パーセントが居住していて、他のどの都市よりもはるかに多かった。2021年になると、バンクーバーは30.0パーセントとシェアーを拡大したが、トロントは21.0パーセントに縮小する。

1996年から2011年にかけて、日系カナダ人の数は年平均年率3. 6パーセントで増加した。バンクーバーとトロントは日系カナダ人数の伸びを下回り、カルガリー、モントリオール、エドモントン、ビクトリア、オタワ、オシャワ、ウィンザーは上回った。

4. 1961年から2021年にかけての日系カナダ人の年齢分布の変化

表9は、1961年と2021年の日系カナダ人の年齢分布を示している。この60年間で、日系カナダ人の数は168%増加した。1歳から14歳（191%）、45歳から69歳（190%）、65歳以上（194%）の年齢層の人数は、日系カナダ人全体よりも速く増加した。

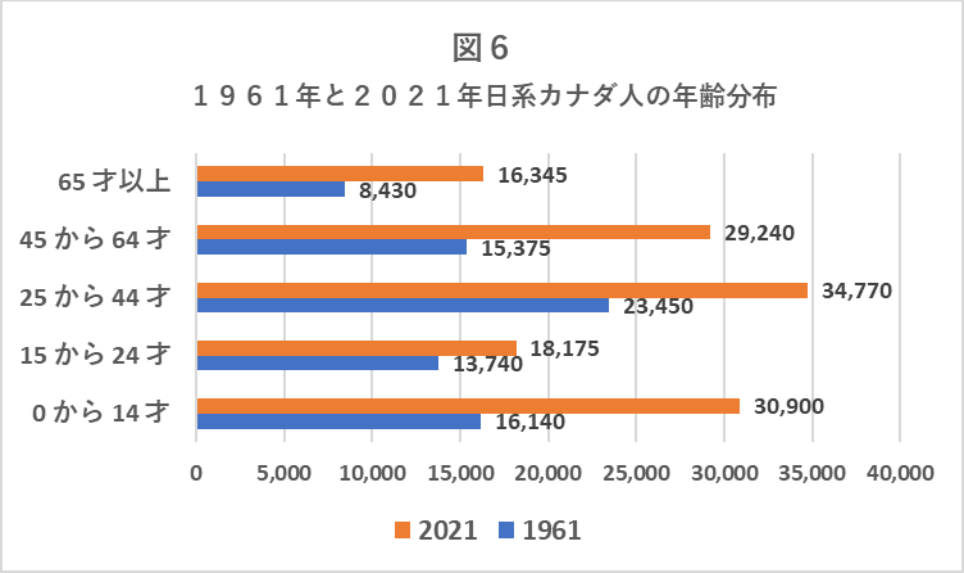
表 9

１９６１年と２０２１年日系ｶﾅﾀﾞ人の年齢分布

年齢層	1961	2021	% 変化
0 から 14 才	16,140	30,900	191
15 から 24 才	13,740	18,175	132
25 から 44 才	23,450	34,770	148
45 から 64 才	15,375	29,240	190
65 才以上	8,430	16,345	194
全ての年齢層	77,135	129,430	168

年齢別%分布

年齢層	1961	2021
0 から 14 才	20.9	23.9
15 から 24 才	17.8	14.0
25 から 44 才	30.4	26.9
45 から 64 才	19.9	22.6
65 才以上	10.9	12.6
全ての年齢層	100.0	100.0



5. 2021年における日系カナダ人の人口

5.1 2021年の日系カナダ人の年齢・性別分布

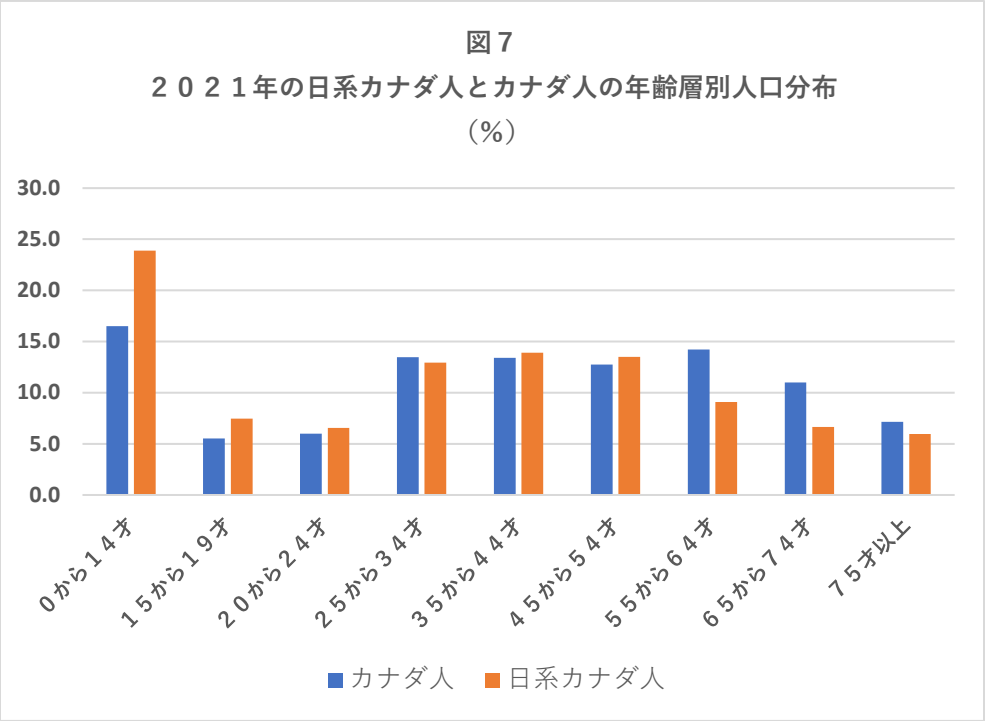
表10
２０２１年の日系人の世代、性、年齢別分布

世代	日系カナダ人全体			第１世代		
性	合計	男性	女性	合計	男性	女性
全ての年齢層	129,430	56,845	72,580	48,190	16,120	32,070
２から１４才	30,900	15,930	14,970	3,715	1,815	1,900
１５から１９才	9,670	4,805	4,860	2,495	1,155	1,340
２０から２４才	8,505	4,145	4,360	2,585	1,190	1,395
２５から３４才	16,750	6,925	9,825	7,130	2,395	4,735
３５から４４才	18,020	6,630	11,395	9,825	2,695	7,130
４５から５５才	17,485	6,200	11,285	10,420	2,625	7,790
５５から６４才	11,755	4,995	6,765	4,680	1,330	3,355
６５から７４才	8,610	3,910	4,695	4,310	1,740	2,575
７５才以上	7,735	3,310	4,430	3,030	1,180	1,850

出典：２０２１年カナダ国勢調査

世代	第２世代			第３世代以上		
性	合計	男性	女性	合計	男性	女性
全ての年齢層	38,810	19,265	19,545	42,425	21,460	20,965
２から１４才	15,080	7,785	7,300	12,100	6,330	5,775
１５から１９才	3,970	2,010	1,960	3,200	1,640	1,560
２０から２４才	3,030	1,470	1,560	2,890	1,485	1,405
２５から３４才	3,810	1,810	2,000	5,810	2,715	3,090
３５から４４才	3,795	1,800	2,000	4,395	2,130	2,265
４５から５５才	2,700	1,315	1,385	4,370	2,260	2,110
５５から６４才	1,435	740	700	5,640	2,930	2,710
６５から７４才	1,250	625	630	3,055	1,555	1,500
７５才以上	3,740	1,715	2,030	965	420	550

出典：２０２１年カナダ国勢調査



図表6は、2021年の日系カナダ人とカナダ人の年齢分布を示している。日系カナダ人は0歳から14歳の子供がカナダ人全般に比べて相対的多く、55歳から64歳、65歳から74歳、75歳以上の年齢層は少ない。言い換えれば、日系カナダ人はカナダ人より相対的に若い。これは主に、日系移民の子供や孫が多いためである。

5.2　2021年の戦後日本人移民とその子供と孫の数の推定

日系カナダ人の世代別年齢分布を用いて、2021年の戦後日本人移民とその子供と孫の数を推定する。

表11は、2021年における日系カナダ人の世代別・年齢層別人口である。カナダ国勢調査は、日系カ

ナダ人の総数を第1世代、第2世代、第3世代以上に分けている。第一世代はカナダ国外で生まれ、カナダに移住した人々である。第二世代は、カナダで生まれたが、その片親または両親がカナダ国外で生まれた人々である。第三世代以上は、両親がカナダで生まれた人々である。

表１１

日系ｶﾅﾀﾞ人の世代別、年齢層別人口、2021年

赤字は新移住者とその子供と孫の推定値

年齢層	全ての世代	第１世代	第2世代	第3世代とそれ以上
全ての年齢層	129,430	48,190	38810 (29685)	42,425
０から１４才	30,900	3,715	15,080	12100 (6,638)
１５から１９才	9,670	2,495	3,970	3,200
２０から２４才	8,505	2,585	3,030	2,890
２５から３４才	16,750	7,130	3,810	5,810
３５から４４才	18,020	9,825	3,795	4,395
４５から５４才	17,485	10,420	2,700	4,370
５５から６４才	11,755	4,680	1,435	5,640
６５から７４才	8,610	4,310	1,250	3,055
７５才以上	7,735	3,030	3,740	965

出典：２０２１年国勢調査

第一世代の日系カナダ人は、戦後移民である可能性が高い。1935年から1941年の間にカナダに移民した日本人は464人しかいない。1941年にカナダに来た人々を20歳と仮定すると、2021年には100歳になる。実際には、2023年に100歳を超える戦前移住者も少数存命であるが、概算では2021年に75歳以上の人はすべて戦後の日本人移民であると仮定する。

第二世代では、2021年時点で44歳以下の人は1977年以前生まれである。1977年に出産した最年長の母親を40歳と仮定しよう。すると、この母親は1937年生まれである。前項で示したように、1935年から1941年の間にカナダに移住した日本人はほとんどいない。したがって、第二世代の44歳以下の人々は、戦後の日本人移民第一世代、つまり新移住者の子供たちであると推測できる。

20歳から44歳までの女性が出産適齢期であると仮定する。第二世代、第三世代とそれ以上の世代における20才から40歳の年齢層の人数を、この年齢層の女性数の代用値とする。そして、この年齢層の女性の第2世代と第3世代以上の相対的比率は第2世代が45%、第3世代以上で55%であった。第3世代以上の14歳未満の子供の数（12,100）をこの比率を用いて、第1世代の孫（6,638人）と戦前の日本人移民の第3世代以上の孫（5,462）に分ける。

すると、戦後移民とその子供と孫の日系人全体に占める割合は次のように推定できる。

- 日系移民の第一世代　48,190人（日系カナダ人全体の37.2）
- 日系移民の第一世代とその子供たち　77,875人（日系カナダ人全体の60.2%）
- 日系移民1世とその子供、孫世代　84,513人（日系カナダ人全体の65.3%）

これは、特定の仮定に基づいた推計であるが、日系カナダ人社会で起こっている世代交代を示してい

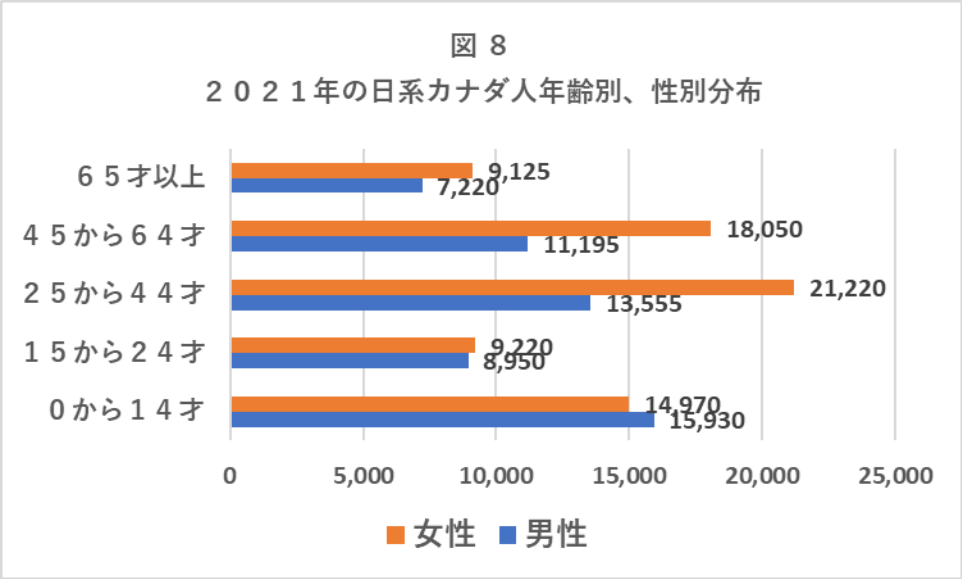
る。このような世代交代はどの移民グループでも起きているが、日系カナダ人の場合は戦後のカナダ政府の日本人移民に対する制限的な移民政策のために、戦前の移民が終了し、戦後の移民が始まるまでにの大きなギャップが生じた。また、戦前の移民と戦後の移民は日本とカナダにおけるまったく異なる歴史的経験を持つ集団となった。

5.3　2021年の日系カナダ人の年齢性別分布

表12は、2021年における日系カナダ人の年齢性別分布を示している。日系カナダ人は女性の数が男性の数を約30%上回っている。これは、25歳から44歳のグループ（男性より57%多い）と45歳から64歳のグループ（男性より61%多い）の2つの年齢グループで女性の比率が高いためである。過去30年間の日本人新移民の約7割が女性だったのがその要因である。この点については、戦後移民の項目で説明する。

表12
２０２１年の日系ｶナダ人年齢別、性別分布

年齢層	全て	男性	女性
０から１４才	30,900	15,930	14,970
１５から２４才	18,175	8,950	9,220
２５から４４才	34,770	13,555	21,220
４５から６４才	29,240	11,195	18,050
６５才以上	16,345	7,220	9,125
全ての年齢層	129,430	56,850	72,585



6.　日系カナダ人の社会的・経済的特徴

6.1　母国語

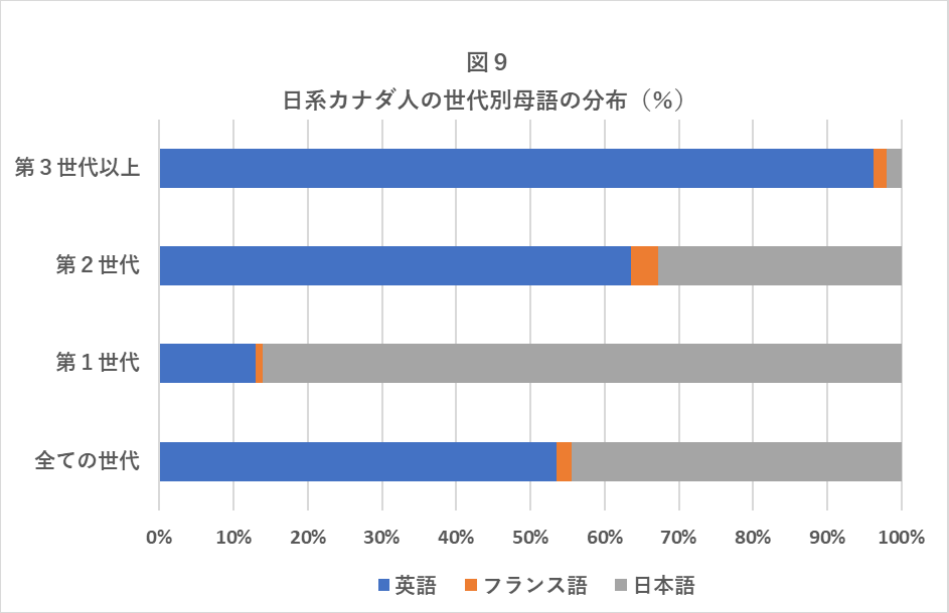
表13と図表7は、2021年における日系カナダ人の世代別母国語比率の分布を示している。この表の統計は、可視的日本人少数グループに属する人々に基づいている。

母語とは、幼少期に家庭で習い、国勢調査が実施された時点でもその人が理解している第一言語のことである。最初に習った言語がわからなくなった場合、母語は2番目に習った言語となる。幼児期に複数の言語を同時に学んだ人の場合、母語は、その人が就学前に家庭で最もよく話していた言語である。その人が複数の母語を持つのは、これらの言語を同時に学び、現在も理解している場合のみである。

表 14
日系カナダ人の世代別母語の分布（％）

世代	英語	フランス語	日本語
全ての世代	54	2	45
第１世代	13	1	86
第２世代	64	4	33
第３世代以上	96	2	2

出典：２０２１年国勢調査



日系カナダ人第一世代では、日本語を母語とする人の割合は86%であった。第2世代では33パーセントに減少し、第3世代では2パーセントまで減少した。このように、現在の社会的、経済的、教育的環境のもとでは、戦後日本人移民は第3世代でほとんど日本語能力を失ってしまうのである。

6.2　2016年における15歳以上の日系カナダ人の最終学歴

表14は2026年における15歳以上のカナダ人と日系カナダ人の最終学歴の分布を示している。男女とも日系カナダ人の方がカナダ人より高学歴である。

表15
2016年現在の１５才以上の日系カナダ人とカナダ人の最終学歴分布（％）

最終学歴	カナダ人			日系カナダ人		
	全て	男性	女性	全て	男性	女性
高校卒業免状なし	18.3	19.1	17.6	10.2	12.4	8.7
高校またはそれに相当する教育を終了	26.5	26.4	26.5	25.9	26.9	25.2
大学学士またはそれに相当する教育以上	55.3	54.6	55.9	63.9	60.8	66.1

出典：２０１６年国勢調査

6.3　　2016年に日系カナダ人が働いていた産業

表14は、15歳以上のカナダ人と日系カナダ人が2016年に働いていた産業別分布である。

日系カナダ人は2016年に幅広い産業で働いていた。しかし、日系カナダ人とカナダ人の産業別分布にはいくつかの違いがあった。

以下の産業では、カナダ人よりも日系カナダ人の割合が大きかった。

専門的、科学的、技術的サービス： 専門的、科学的、技術的サービス：日系カナダ人10.2%対カナダ人7.3%。
教育サービス： 教育サービス：日系カナダ人9.7%対カナダ人7.4%。
宿泊・飲食サービス： 日系カナダ人12.9%対カナダ人7.0%。

以下の業種では、カナダ人よりも日系カナダ人の割合が少ない。

農業： 農業：日系カナダ人1.0%対カナダ人2.4%。
鉱業、林業、漁業、狩猟（日系カナダ人：1.1% 対 カナダ人全体：1.5）
建設業 建設：日系カナダ人3.7%対カナダ人7.5
製造業： 製造業：日系カナダ人6.4%対カナダ人8.7%。 医療・社会扶助に従事する女性：日系カナダ人15.1% 対 カナダ人20.1%。

6.5　　2020年におけるカナダ人と日系カナダ人の平均雇用所得

表16は、2020年の課税年度におけるカナダ人と可視的日本人少数グループ）の平均雇用所得を示している。

表16
２０２０年のカナダ人と日系カナダ人の給与所得平均値

	カナダ人	日系カナダ人
	男女全員	
平均値（カナダドル）	50,280	51,450
	男性	
平均値（カナダドル）	58,050	65,800
	女性	
平均値（カナダドル）	42,000	41,080

出典: ２０１６年国勢調査

雇用所得とは、基準期間中に有給の雇用から得たすべての賃金、給与、手数料、および農家や非農家の法人事業、専門的業務から得た自営業所得のことである。

日系カナダ人の平均雇用所得（51,450ドル）は、カナダ人（50,280ドル）を上回った。

日系カナダ人男性の平均雇用所得（65,800ドル）は、カナダ人男性（58,050ドル）より13パーセント高い。

日系カナダ人女性の平均雇用所得（41,080ドル）は、カナダ人女性（42,000ドル）よりやや低い。

7. 戦後日本人移民の人口統計的特徴

7.1 戦前と戦後の日系カナダ人の年齢分布

ここでは便宜上、「戦後日本人移民」を戦後の日本人移民一世とその子や孫と定義する。5.2節で、2021年における戦後日本人移民の数を推計した（表１７）。

表17
２０２１年にカナダ在住の戦後日本人移民人口推定値

	人数	総数	日系カナダ人に対するパーセント
第1世代	48,190	48,490	37.2
第1世代の子供	29,685	77,875	60.2
第1世代の孫	54,828	84,513	65.3
日系カナダ人総数	129,430		

7.2 戦後日本人移民一世の性別分布

表 18
２０２１年の日系ｶナダ人の世代別、性別分布（％）

	全て	男性	女性
総数	129,430	56,845	72,580
第 1 世代	48,190	16,120	32,070
第 2 世代	38,810	19,265	19,545
第 3 世代以上	42,425	21,460	20,965

出典：２０２１年国勢調査

表18に示すように、2021年の戦後日本人移民第一世代は女性が男性の約2倍であった。

2021年国勢調査は可視的日本人少数グループに属する人にカナダへの移住時期について質問した。表19Aに示すように、この質問には29,930人が回答しており、日系カナダ人第一世代（48,190人）よりは少ないが、戦後の日系移民新入者の男女分布の傾向を知ることができる。

表 19A

2021年の日本人移民の性別、移住時期別の人口

移民の時期	移民数	1980以前	1980から 1990	1991から 2000
移民総数	29,930	4,925	2,225	5,360
男性	8,200	2,140	795	1,275
女性	21,730	2,785	1,430	4,080
移民の時期	移民数	1980以前	1980から 1990	1991から 2000
移民総数	8,410	4,405	1,800	2,805
男性	1,765	1,080	475	660
女性	6,645	3,325	1,325	2,145

出典：２０２１年国勢調査

表 19B

2021年の日本人移民の性別、移住時期別の人口のパーセント分布

移民の時期	移民数	1980以前	1980から 1990	1991から 2000
移民総数	100	100	100	100
男性	27	43	36	24
女性	73	57	64	76
移民の時期	移民数	1980以前	1980から 1990	1991から 2000
移民総数	100	100	100	100
男性	21	25	26	24
女性	79	75	74	76

出典：２０２１年国勢調査

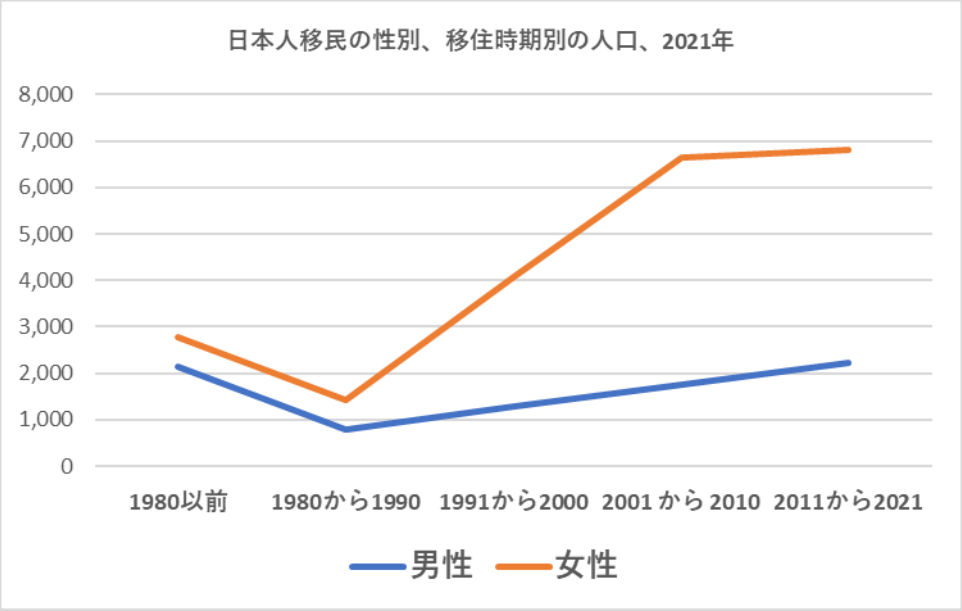


表18Bが示すように、戦後の日本人移民の約73%は女性である。日本人移民における女性の優位は1991年から2000年にかけて始まり、2011年から2021年まで続いた。1991年から2000年にかけては、日本人移民の約75%が女性であった。

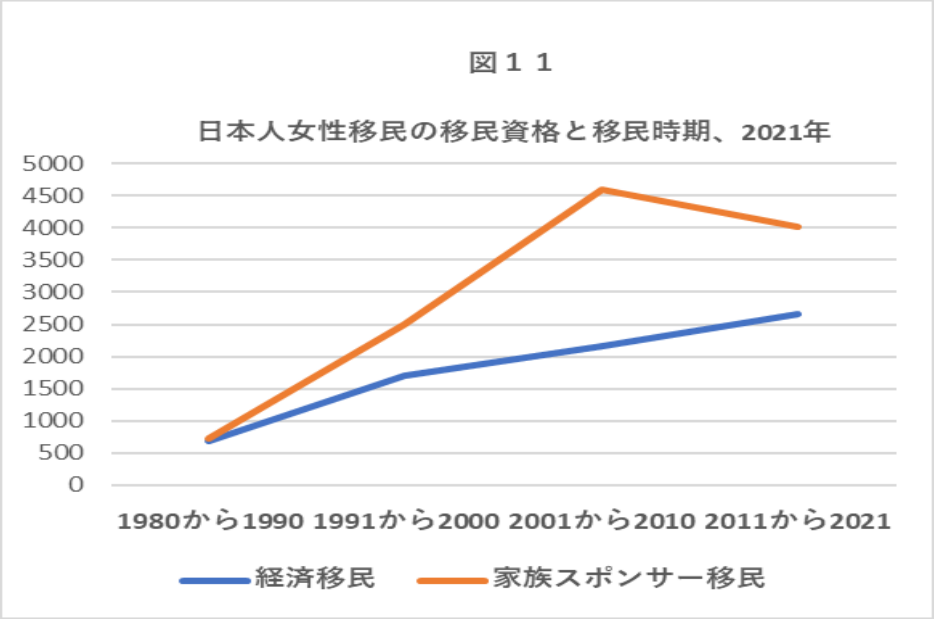
7.3　戦後日本人移民の移民申請クラスの分布

表20、図表11、図表12は、2021年にカナダに在住している戦後日本人移民をカナダへの移民期間、移民申請クラス別に分類したものである。

表20
2021年カナダ在住の戦後日本人移民の移民申請クラスと移民の時期

男性	1980から1990	1991から2000	2001から2010	2011から2021
経済移民	635	1,095	1,415	1,595
家族スポンサー移民	140	335	545	540
その他	10	25	50	40
女性	1980から1990	1991から2000	2001から2010	2011から2021
経済移民	690	1,700	2,165	2,660
家族スポンサー移民	725	2,510	4,605	4,015
その他	55	50	80	135

出典：2021年カナダ国勢調査



移民申請クラスは大きく分けて、経済移民、家族スポンサー移民、難民その他がある。経済移民はカナダ経済に貢献する技術と経験に基づいて選択される。家族スポンサー移民は、カナダ市民または永住者である近親者によってスポンサーされた個人である。通常、カナダ市民や居住者は、彼らの伴侶、パートナー、子供、両親、祖父母や親戚のメンバーのスポンサーとなる。家族のスポンサーシップの申請には家族関係の証明し、カナダ移民、難民、市民権（IRCC）によって設定された特定の資格基準を満たす必要がある。スポンサーはまた特定の期間、スポンサー家族を経済的に支援する能力を証明するために、特定の財政要件を満たさなければならない。

1980年から1990年まで、日本人女性の経済移民と家族スポンサー移民の数はほぼ同じであった。1991年から2000年にかけては、家族スポンサー移民が経済移民の2倍となった。

この40年間、男性の日系移民の大半は経済移民である。

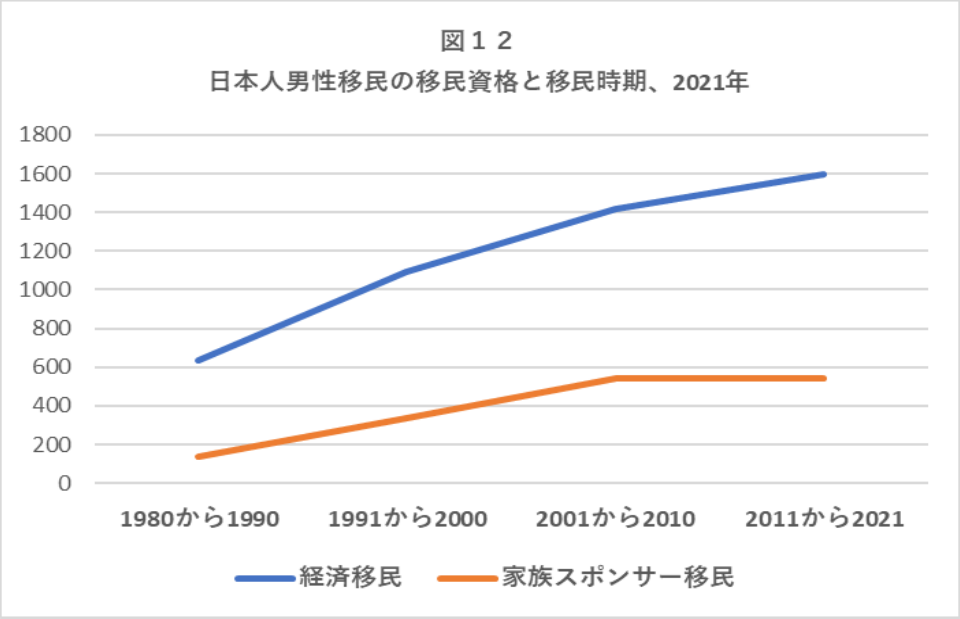


図21は、2015年から2022年にかけての家族スポンサー移民（男女）の数を示している。この期間に、家族スポンサー移民の82%がカナダ人の配偶者またはパートナーがスポンサーとなっている。国勢調査では、家族スポンサー移民の配偶者またはパートナーが、日系カナダ人であるか、日系カナダ人以外であるかはわからない。しかし、日本人移民第1世代を含めた日系カナダ人の異民族結婚率が78.6パーセントと高いこから、戦後に日本人移民、特に女性移民は日系カナダ人以外の伴侶またはパートナーを持つ人の割合が高いと推察できる。

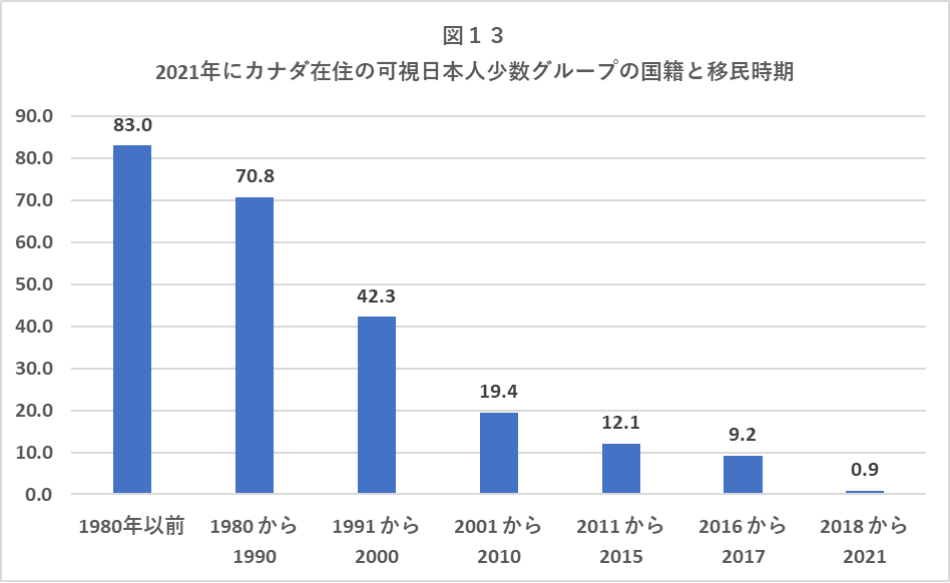
7.4　戦後日本人移民のカナダ市民権獲得時期

表21と図表13は、戦後日本人移民の移民の時期と市民権獲得状況を示している。

表21
2021年にカナダ在住の可視日本人少数グループの国籍と移民時期

国籍	総数	カナダ国籍	出生によるカナダ国籍	帰化によるカナダ国籍	永住権	カナダ国籍者のパーセント
可視日本人総数	98,895	72,185	61,895	10,285	26,705	
出生によるカナダ人	61,895	61,895	61,895	0	0	
移民時期	29,930	10,285	0	10,285	19,645	34.4
1980年以前	4,925	4,090	0	4,090	835	83.0
1980 から 1990	2,225	1,575	0	1,575	650	70.8
1991 から 2000	5,360	2,265	0	2,265	3,090	42.3
2001 から 2010	8,410	1,630	0	1,630	6,780	19.4
2011 から 2015	4,405	535	0	535	3,870	12.1
2016 から 2017	1,800	165	0	165	1,635	9.2
2018 から2021	2,805	25	0	25	2,785	0.9
就労、就学ビザ	7,065	0	0	0	7,065	0.0

出典：2021年カナダ国勢調査



戦後日本人移民はカナダ永住者からカナダに帰化してカナダ市民権を獲得するまでにかなりの時間を費やしている。表12によれば1991年から2000年までにカナダに移住した人のうち、2021年までにカナダ市民権を取得した人の割合は42.3%であった。帰化率は、日本人新移民のカナダ滞在期間が長くなるにつれて上昇した。1980年以前にカナダに移住した人の場合、83.0%が2021年までにカナダ市民権を獲得している。

参考文献

１．カナダ国勢調査

２０２１年が最近の国勢調査である。２０２１年および１９８６年までの国勢調査はカナダ統計局の次のウェブサイトから見ることができる。ただし、それぞれの年度の国勢調査により、このウェブサイトから見ることのできる日系カナダ人関係の統計はことなる。

Census Datasets (statcan.gc.ca)

2.　異民族間婚姻率はカナダ統計局の「Mixed unions in Canada, National Household Survey, 2011, Catalogue Number 99-010-X2011003」に載っている。

3.　日本へ強制送還された日系カナダ人の数は、原口邦博「第二次世界大戦直後に日本へ送還された日系カナダ人： カナダへの再入国をめぐる諸問題」『海外移住資料館研究論文』第13巻、2018年に載っている。

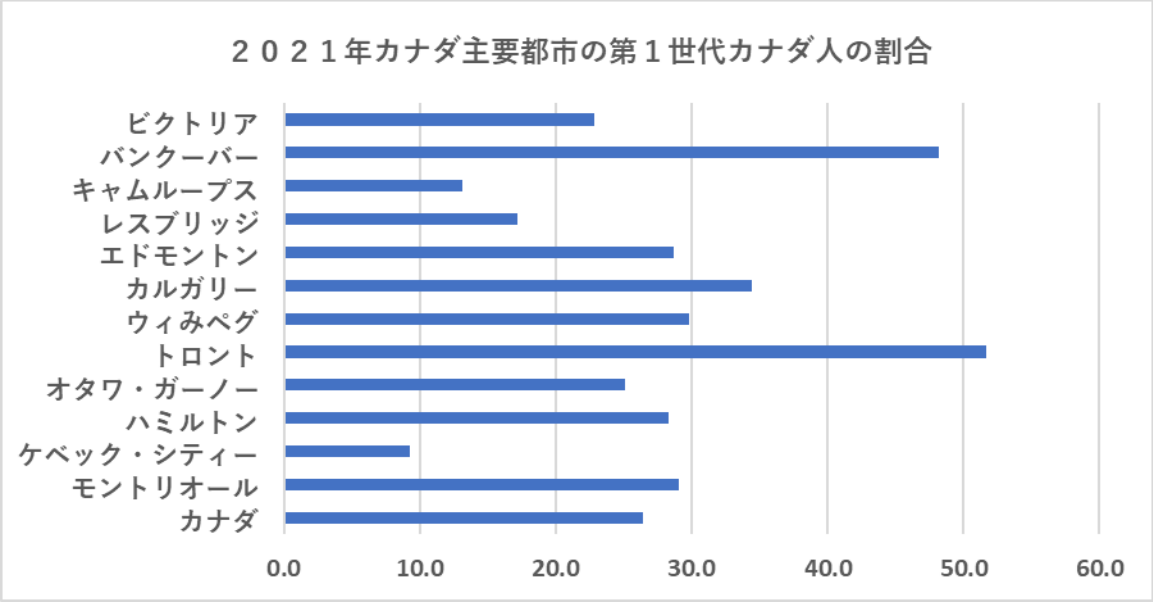
4.　1941年から1946年日系カナダ人の州別の数字は、カナダ国勢調査によるものであるが、直接に国勢調査の統計を見つけることが出来なかったので、次の文献に載っている統計を引用した。
Audrey Kobayashi, “A Demographic Profile of Japanese Canadians and Social Implications for the Future,” September 1989, A report prepared under Contract PCS-8-00374, Department of the Secretary of State, Canada for the National Association of Japanese Canadians.

付録

２０２１年カナダ主要都市の第１世代カナダ人の割合

主要都市	カナダ	第1世代	第２世代	第３世代以上	第１世代の％
カナダ	36,328,475	9,606,600	6,393,310	20,328,570	26.4
モントリオール	4,206,455	1,221,425	721,355	2,263,670	29.0
ケベック・シティー	817,110	75,430	38,660	703,020	9.2
ハミルトン	773,440	218,870	193,760	360,805	28.3
オタワ・ガーノー	1,464,495	367,930	258,420	838,145	25.1
トロント	6,142,880	3,172,330	1,721,285	1,249,265	51.6
ウィみペグ	819,715	244,190	144,605	430,925	29.8
カルガリー	1,465,175	504,270	313,295	647,605	34.4
エドモントン	1,397,750	401,120	278,005	718,630	28.7
レスブリッジ	120,495	20,650	23,040	76,805	17.1
キャムループス	110,545	14,520	17,915	78,105	13.1
バンクーバー	2,607,015	1,256,395	632,460	718,155	48.2
ビクトリア	388,470	88,840	83,375	216,255	22.9

出典：２０２１年国勢調査


２０２１年カナダ主要都市の第１世代カナダ人の割合
ビクトリア
バンクーバー
キャムループス
レスブリッジ
エドモントン
カルガリー
ウィみペグ
トロント
オタワ・ガーノー
ハミルトン
ケベック・シティー
モントリオール
カナダ
0.0
10.0
20.0
30.0
40.0
50.0
60.0